

矢島 渚男 選

慨嘆す自然薯掘りの穴に落ち

神奈川県 中島やさか

【評】山中で掘り身長ほども掘る。食べることより掘ることが目的になる。その穴に気づかず落ちてしまつたと慨嘆。この大がかりな嘆きの漢語が面白い。

草の中ネリネすつくと秋立ちぬ

川崎市 松浦 恵子

【評】ネリネは南アフリカに自生するヒガンバナ科で三十ほどの種類がある。この国でも愛されるだろう美しい花々。中七「ネリネすつくと」が生態を捉えて妙。

借りたままの恐竜図鑑小鳥来る

日立市 菊池 三夫

【評】「小鳥も恐竜の子孫よ。仲間が巨大化する中、私は小さくなって生き残ったんですよ。本を返してね」長き夜や眠ることにふさつちよで

餌置けと催促に来る小鳥かな

葛城市 山本 啓

おほらかな湯桶の音や山は秋

浜松市 久野 茂樹

秋深し生き居る者は遠く棲む

福山市 津田 和敏

交番に鳴く虫籠のありにけり

東海市 斉藤 浩美

喰い初めの杉の割箸新豆腐

川崎市 西 順子

辿り着けることなき露の道なれど

東京都 吉村 恵子

高野ムツ才 選

子の未来孫の未来や今年米

新座市 田中 美登

【評】「今年米」は、本来、米の出来を祝い神仏への感謝を伝える季語。しかし、ここでは収穫の喜びよりも子々孫々の未来を憂える思いが濃い。農業の未来もまた危うい。機影なき霞ヶ浦や鱒雲

東京市 小出 功

【評】霞ヶ浦には海軍飛行場があった。終戦直前には空襲を受け多くの犠牲者も出した。「機影なき」に平和の尊さを噛みしめている。コンビニの明かりに蚯蚓鳴いている

行田市 吉田 春代

【評】蚯蚓には発声器官がない。どうやら蟬蛙の声の聞き間違いらしい。鳴くのは本来畑などの土の中。コンビニの明かりがかわれを誘う。空き地ごと菜園のをり虫の闇

空襲の後に残りし南瓜かな

横浜市 吉野 暢

生徒らは皆帰りにけり葉鶏頭

山梨県 一瀬 利彦

亡き人の戦中戦後想つ夏

横浜市 佐藤 祐一

玻璃みがきあげて色鳥待つ日々

東京都 太田 亜希

蝸の一日はもう始まりぬ

香川県 福家 市子

起重機の穂のとぎけり夏の雲

大津市 竹村 哲男

正木ゆう子 選

鉦叩耳を澄ませば止みにけり

西東京市 永井 康信

【評】チンチンチンという音が美しいので、もっとよく聞きたくて、耳を澄ませます。すると、止む。鉦叩とは実にそういうものだ。小さい音なのに、よく通る、不思議な音である。朝顔や盃ほどこになつてなほ

会津若松市 佐藤 秀子

【評】朝顔は暑い頃から咲き始めるが、秋風の中こそ愛でたい花だ。しだいに花が小さくなるのも趣があり、盃ほどこになればよいよ終り。歯磨きにほのと音程秋の朝

上越市 渡辺 みほ

【評】嗽ほどではないが、歯磨きにも微かに音があるといえはある。歯ブラシと歯と口腔と呼吸の具合。しかも音程があるとは、繊細な気付き。ゆつくりと龍の横切る良夜かな

村上市 鈴木 正芳

遅しき蝗の胸の厚かな

生駒市 高橋 裕樹

星月夜夜を飛ぶ鳥の名を知らず

東京都 望月 清彦

石臼へ真水を用意小鳥来よ

東京都 松永 京子

洗車終へトラック並ぶ星月夜

新潟県 冬木 陽介

つきはぎの思ひ出紡ぐ夜長かな

神戸市 西 和代

小澤 實 選

明日もまた危険な暑さ以下同文

東京都 石井 秀一

【評】この夏から秋にかけて、生命にとって危険なまでの暑さの日は、限りなく続いて、尽きることがなかった。それを表彰の際の決まり文句「以下同文」で表現している。朝顔の種ミニカーの荷台の上

横浜市 浅賀 良雄

【評】ミニカーのトラックの荷台の上に、誰が乗せたのか、朝顔の種が乗っていた。現実の世界ではありえない、巨大な何かなのである。大間より函館を見る良夜かな

越谷市 新井高四郎

【評】本土側、青森側の大間から、北海道側の函館を遠望している。名月の光のもとではあるが、夜景で有名な函館はすこし明るいだろう。スランプの時は新酒を飲み寝ちゃう

武蔵野市 相坂 康

留学時分身たりし辞書曝す

宝塚市 広田 祝世

老いてなほ工夫の妻や夏料理

日高市 佐藤 隆夫

秋祭り流鏝馬の的真つ二つ

川崎市 大野有之介

老眼鏡かけて学ぶや夜学校

土浦市 今泉 準一

かけ声と気合で担ぐ神輿かな

奈良県 松井 秀仁

枝しおり 折

本条東歌集「星とアスバロ」

ウイットに富んだ歌から祈りを感じさせる歌まで、バラエティー豊かな第1歌集。△アラームをすべてオフにする手術の朝「園バス」「下校」「水泳おむかえ」▽

(短歌研究社、2550円)

池本日出美歌集「りんりん」と降りる時に陰りを帯びる日常をじっと見つめることで、生のぬくもりをすくい取る。著者の第1歌集。△しんどいと目に訴へし野良猫の形がのこる今朝の草叢▽

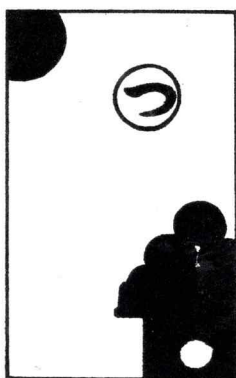
(本阿弥書店、2970円)

栗原公子句集「折り鶴」著者の第2句集。ふとした言葉が鋭い現代批評に達する。△正論はおおよそ退屈藤ゆれて▽

(ふらんす堂、3080円)

◆第71回角川俳句賞「千野千佳「愛嬌」(50句)

◆第71回角川短歌賞「船田愛子「雪の影」(50首)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭